

【授業科目】生理機能検査学実習Ⅱ Practice of Clinical Physiology Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
榎本 喜彦、。金田 泰代	2年次 後期	必修	1	30	実習	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／生理機能検査学実習Ⅱでは脳波・筋電図の測定法を教授する。生理機能検査学Ⅱ,Ⅲの講義よって得た知識をもとに、各種検査手法の習熟および得られた結果を評価できるよう講義する。生理機能検査においては、患者対応が不可欠である。特に診断に影響を及ぼすアーチファクトの多くが患者由来であることを理解し、患者対応への意識および接遇の重要性を教授する。データ解析にはグループディスカッションを取り入れ、コミュニケーション能力を向上させる。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法／レポートにコメントをつけて返却する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①脳波の一連の測定法が実施できる。 ②筋電図、誘発筋電図、神経伝導速度の測定が実施できる。 ③サーモグラフィー測定を実施できる。 ④平衡感覚検査、聴力検査を実施できる。 ⑤味覚、嗅覚検査を実施できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1回～第15回事前学習：事前に実習項目について予習を行っておく／範囲内の実習書を熟読しておく／分からない測定法は調べておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：実習内容で不明な点は、実習中もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にすること（30分）／実習内容に沿ったレポートの作成（180分）</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 脳波の基礎 第2回 脳波測定法について、電極の配置 第3回 脳波測定法について、電極の配置 第4回 誘発電位、筋電図の基礎 第5回 誘発電位、筋電図の基礎 第6回 運動神経伝達速度の測定法 第7回 運動神経伝達速度の測定法 第8回 感覚神経伝達速度の測定法 第9回 感覚神経伝達速度の測定法 第10回 感覚神経伝達速度の実際、サーモグラフ測定 第11回 感覚神経伝達速度の実際、サーモグラフ測定 第12回 平衡機能検査 第13回 平衡機能検査 第14回 嗅覚検査、味覚検査 第15回 嗅覚検査、味覚検査</p>						榎本、金田	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 40% 実技試験(接遇を含む) 30% 定期試験 30%</p>							
教科書	実習書をPDF化したファイルと、プリントを配付します。			参考書等		最新臨床検査学講座「生理機能検査学」東條尚子、川良徳弘著（医歯薬出版株式会社）		
学生へのメッセージ	<p>生理機能検査の手技・技術だけではなく、測定結果に重要な因子となる接遇、アーチファクトについても習得して欲しい。</p>							